

つるし飾りについての考察 — 雛のつるし飾りの復活と今後 —

三原 信子

Consideration about the Tsurushikazari Ornament
— The Revival and Future of Hina Tsurushikazari Ornament —

Nobuko MIHARA

1 はじめに

ここ10年余りに復活を果たした手工芸品に「つるし飾り」がある。

伊豆・稲取の「雛のつるしかざり」をはじめとし、酒田の「傘福」、九州・柳川の「さげもん」が日本三大つるし飾りと称されている。いずれも観光開発を目的として復活した経緯はあるものの日本独自の手工芸品である。作品のみならず作られる過程での心情的な事柄が一層作品の深みを増す貴重なものである。

ここ数年、「雛のつるし飾り」を求め各地を訪ねることも多く、作品作りや製作指導等も進めてきた。歴史や製作方法を印した文献も少ない状況の中で「雛のつるし飾り」の伝承も明確でないように感じた。今回はこの三大つるし飾りの特徴を調べ、更にこの復活やブームがどのように始まり発展を遂げ変化していくかを考察する。(写真1、2)



写真1 つるし飾り（自作品）



写真2. つるし飾り（自作品）

2 雛飾りの起源

季節の変わり目に人を襲う邪悪なものを祓うために上にお供え物を捧げる「節分供」は奈良時代に

中国から渡来した風習である。平安時代に陰陽五行説による暦が政治や生活習慣の基本になった。これを基に我国でも次第に独自の節供行事が形成されていった。江戸時代には幕府が制定した「五節供」は、正月七日の「人日（じんじつ）」、三月三日の「上巳」、五月五日の「端午」、七月七日の「七夕」、九月九日の「重陽」がある。雛祭りは、宮中の女性のひいな遊びから発祥したものと、厄除け（邪気を払う信仰・縁起物）が起源のものがある。

（１）ひいな遊びが起源のお雛様

奈良時代の「ひとがた」としての人形、玩具としての人形から平安時代の人形遊びとしての雛遊びへと変化して室町時代の雛人形が確立した。お内裏様、三人官女、五人官女、五人囃子、と宮中の人々が登場し、調度もたくさん備え、段飾りと発展した。江戸時代には一般庶民にも雛祭りが普及した。しかし、高価なものなので雛人形をそろえることは難しく手作りの和細工物や郷土玩具で代用した。（写真3）



写真3 ひとがた（所有品）

（２）厄除けから発祥したお雛様

鳥取県に残る流し雛が有名である。また、松本の吊し雛も厄除けで、長野県には海が無いので厄を風に流すいうことで、紙の人形を軒下に吊るして風に漂わせ、厄を祓う。（写真4）

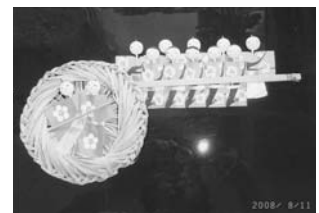


写真4 流し雛（所有品）

（３）郷土玩具のお雛様

江戸時代には、江戸に全国の大名の江戸屋敷があり、そこに奉仕に上がった女性達が、武家の雛飾りを広める役割を果たした。ところが、享保雛や古今雛は買えないので、紙や土を材料として郷土玩具でお雛様を作っていた。山形県の酒田土人形、宮城県の堤人形、京都の伏見人形が有名である。（写真5、6）



写真5 土人形・玩具（所有品）



写真6 堤人形（所有品）

（４）コミュニティーのお雛様

子供が生まれた最初の雛祭りに、おばあちゃんが若かりし頃の着物でつるし雛を作り、また近所や親戚縁者もお祝いに贈る。

山形県酒田市 「傘福」 静岡県東伊豆町稲取地区 「雛のつるし飾り」 福岡県柳川市 「さげもん」

が有名である。

3 つるし飾りの種類

(1) つるし飾りの起源と日本三大つるし飾り

1) つるし飾りの起源

つるし飾りは初節句を迎える初孫（女子のみ）のために作られたものである。専門の職人による伝承でなく祖母から母へ、母から嫁へとその作る工程が受け継がれた。しかし、嫁ぐ時に全てを焼いて処分するため昔からの物が残っていることが少ないようである。

雛のつるし飾りの風習は、江戸時代の頃を発端としているが、明らかではない。江戸時代においては、農村、漁村、町場等で雛飾りを購入出来るような家庭はまれで、せめて雛飾りの変わりに子供や孫の為に手作りの雛飾りで初節句を祝おうとした親心から生まれたものである。この全国的にも珍しい雛のつるし飾りの風習は、山形の酒田地区、静岡の稲取地区、福岡の柳川地区の3カ所のみに残されている。日本三大工芸細工とも言われている。

※統一的には以上の地名であるが観光用としては「山形の酒田」、「伊豆の稲取」、「九州の柳川」とされているので本章では全て観光用の地名で記す。

2) 酒田・稲取・柳川の発祥地域の関連性

なぜ酒田・静岡・九州という離れた地域によく似た雛つるし飾りが生まれたかについてはいくつかの説があるがはっきりした事はわかっていない。

江戸時代流通の要であった北前船の寄港地であった酒田。山形の酒田市は庄内平野という穀倉地帯であり、酒田市の本間家（巨大地主）、鶴岡市の風間家（豪商）を中心に日本海側における有数の港町として栄えた。河村瑞軒が江戸と酒田を結ぶ海路を設定し途中で風待ちや積荷の積直しで立ち寄る港として、この海路を確立したことによって酒田港の名は広まった。

静岡の稲取市は伊豆東岸の最大の漁港として栄えた。

福岡の柳川市は筑紫平野の一隅の水郷として親しまれている。柳河藩の城下町として江戸時代を通して政治経済の中心であった。

現代は文化を電波に介在させ国内外に瞬時に伝達するが、当時は文化は海を渡り、人を介在して伝わったのである。

介在した人は船頭であり、漁師であり、商人であり、行儀見習いのために奉公した娘であり、嫁に來たり入ったりした娘でありと様々である。その地の有力者により高価な文化の行き来もあったと想像出来る。現に京都で創られた雛の数々を酒田や柳川で見ることもある。高価な文化や庶民的な文化が海を渡り伝わってきた。また、物品だけでなく技術も移入されていた。行儀見習いの娘が奉公先で和裁、華道、書道等を習い地元に戻り地域の人に広めていった。このように栄えた三都市の人々が開けた海路により多くの物品や技術などの文化が行き来したものと考えられる。

3) 日本三大つるし飾りの特徴

①山形・酒田地区のつるし飾り

傘の骨組みを利用して飾る方法が特徴とされ、傘福、傘鉾、笠福とも呼ばれているが「傘福」の名称で統一されている。

稲取や柳川との大きな相違点は傘が使用されている。理由を調べる。

酒田・山王祭りに引かれていた本間家の山車は現在酒田夢の倶楽に展示されている。創られた当初は大きな傘で全体が覆われていた。更に傘にかざりが付けられていた。かざりとしては宝づくし（打出の小槌、巻物、鍵、など）がかざられていた。おめでたいものを山と積んだ、本間家の山車は初めは「亀鉾」、「傘鉾」と呼ばれる。現在は「亀傘鉾」と呼ばれている。（写真7、8、9）



写真7 傘福



写真8 山王祭



写真9 亀傘鉾

※山王祭り：京都の祇園祭に習い、山車は山鉾を模倣したものである。本間家三代光丘が活気のある町にし、観光につなげるようにしたことが事の起こりである。現在は毎年5月20日に酒田祭りとして催されている。

傘仕様の類似のものとして下記のものがある。

- ・京都市北区の今宮神社におけるやすらい祭りの風流傘
- ・三重県志摩半島の盆の大念仏の行事 カサブク

傘の中には魂が宿るとして安産や子供の成長や無病息災を願い観音堂に奉納する風習がある。未広がりめでたく、傘の略字が八十に見えることから長寿の祝いにも使われてきた。

酒田の人々にとって傘の先にぶらさげる形というのは珍しいことではなく、昔から親しまれていた飾り方であったことがわかる。「傘福」は信仰による祭りのだしから始まり、江戸時代末期には奉納を目的として製作されたものであり、雛祭りに飾るなどの目的の稲取や柳川とは相違点をはっきりしている。しかし、近年のブームに影響を受け酒田でも酒田市商工会議所女性会により「傘福」の復活のための活動が活発に行われている。

②静岡・伊豆稲取のつるし飾り

福岡・柳川のさげもんと同様の構成であるが手鞠は使われていない。吊し飾り、つるし雛飾りとも呼ばれていたが「雛のつるし飾り」の名称で統一されている。稲取では女の子が生まれ初節句を迎えると、祖母・母・姉・叔母など親類縁者や近所の婦人達の協力を得て、子供の健康で幸多き成

長を願う気持ちを込めて、一針一針縫い心のこもった手作りの贈り物として作られた。つるし飾りは当時、近隣の町では飾る習慣が無く稲取独自のものであると言われている。その子の7歳の誕生日・嫁入り等の時に小正月のドンド焼きに納めてお炊き上げにしてもらう慣わしがありそのため古いものが残っていない。

古いもので残っているもの

明治時代製作のもの 雛の館展示場に展示（鈴木家）（写真 10）

昭和 20 ～ 30 年製作のもの 雛の館展示場に展示（山田家）（写真 11）



写真 10 明治・大正時代の作品（雛の館）



写真 11 昭和 20 年代の作品（雛の館）

江戸後期・明治・大正・昭和と一般家庭で初節句に飾られていたが昭和 30 年頃より衰退してくる。衰退の原因としては戦後の混乱期にともなう社会状況や家族制度の変化（大家族→核家族へ）などによる。その後空白の 40 年を経て、平成 5 年に稲取へ他地域より嫁いだ女性を中心にした町内婦人部の方々により復活する。

③九州・柳川のつるし飾り

静岡・伊豆稲取の雛のつるし飾りと同様の構成であるが柳川鞠を使っているのが特徴である。（写真 12）

さげもん・提げもん・さがりもの・さげ飾り・下げもん・ひなもんとも呼ばれていたが「さげもん」の名称で統一された。

「さげもん」は女の子が生まれた初節句に間に合うように一年がかりで親類同士で手伝い合いながら作られる。特徴である中央の大きな鞠は直径 10cm ～ 15cm あり柳川鞠と呼ばれている。

作り方は芯は木屑を巻いた上に木綿糸をきつく巻きつける。芯の中には弓の弦の切れ端（真っ直ぐに強い子に育つ）・ジミ（蘭草）（柔らかに優しい子に育つ）などを入れる。その上から草木染の木綿糸で刺繍をほどこす。伝統的な模様として菊・椿・都わすれなどの花模様である。

現在は芯は発泡スチロールの玉、刺繍糸は合染め糸やリリアンの糸を使用した簡易な物もある。

49 のおかざりの数は人生 50 年の時代にせめても 50 年は生きられるようにと願う数であるが、割り切れるため 49 とし鞠は 2 個とし合計 51 にした。

その歴史は稲取のつるし雛と同じ流れである。江戸時代末に始まり、昭和 30 年頃より衰退してくる。平成 7 年頃に稲取の復活に背を押されるように柳川でも復活した。

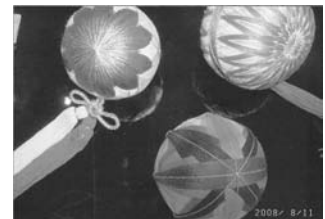


写真 12 まり（所有品）

④三大つるし飾りの特徴の比較

山形の酒田地区のつるし飾り

- ・「傘福」(写真 13)
- ・観音堂に飾られる（庶民の現実的で切実な願いを込めて奉納され、天蓋と同様に本堂を荘厳とする役目もある
- ・鶴岡の風間家、海向寺（酒田市）、心向寺（庄内市）、総光寺（庄内市）に奉納されている
- ・傘の周りに短い幔幕のような布があり、布の下や傘の先に飾り物が下がっている
- ・数量的な決まりごとは不明

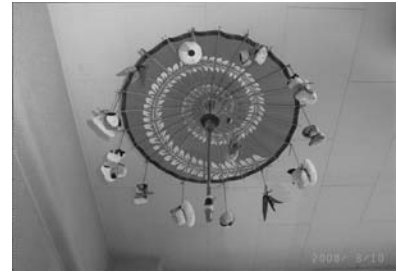


写真 13 自作品

伊豆の稲取地区のつるし飾り

- ・「つるしかざり」(写真 14)
- ・雛壇の前につるして飾る
- ・稲取市内に展示場が3つ用意されている
- ・11 個 × 5 本 = 55 個、2 個で一對



写真 14 稲取「なぶらとと」

九州の柳川地区のつるし飾り

- ・「さげもん」(写真 15)
- ・雛壇の前につるして飾る
- ・柳川市内の立花家、白秋館、戸島代官邸
- ・その年の初節句の家庭の飾りを一般公開
- ・7 個 × 7 本 = 49 個 + 鞠 2 個



写真 15 柳川「白秋記念館」

(2) その他の地域のつるし飾り

日本三大つるし飾りの山形の酒田・伊豆の稲取・九州の柳川以外のつるし飾りの習慣のある地域を探すと、この三県の近隣の県や市・町に存在する

- ・静岡県鹿原郡蒲原町のつるしもの（押絵式、ぬいぐるみ式）

吉徳資料室の林直輝氏の調査より

- ・福島県いわき市のつるしもの（押絵式）
- ・福島県郡山市湖南町「カサボコ」（ぬいぐるみ式）
- ・長野県上田市のつるしもの（押絵式）

山崎祐子氏の「雛祭りのお吊し物」より

不思議とお雛様で有名な地域の岐阜の飛騨高山、山口の萩・津和野、京都等には雛飾りとしての

つるし飾りは存在しないが、厄払いや奉納品としてのつるし飾りは存在する。関東近隣での観光用の存在としては埼玉（鴻巣）・千葉（勝浦）・神奈川（鎌倉）にはつるし飾り（ぬいぐるみ式）が飾られてゐる。（写真 16、17）



写真 16 鴻巣市役所



写真 17 勝浦市内

飾るという行為の中に、前記した子の成長を願う目的でなく、神社や寺、観音堂への奉納という形で残っているものもある。

- ・山形県酒田 総光寺（傘福）、心光寺（傘福）、海向寺（傘福）
- ・山口県 富貴寺（さる子）
- ・神奈川県鎌倉 杉本寺（くくりざる）

杉本寺：6本束ねて本堂の中に観音像の横に一組奉納されている。くくりざるが一本に8個、三角が1個。5年前（2003年）に奉納され比較的新しいものである。布地は錦糸布で色も赤・青・緑・黄で作られている。

富貴寺：10本程束ねて本堂中のご本尊様の横に一組奉納。さる子が一本に7個ずつついている。ぼろぼろで手で触ると紙のように壊れてしまいそうである。下についているのは奉納者の名札、布地は灰色のメリンス。奉納年月は不明。

（3）つるし飾りの「おかざり」について

1）分類

①形による分類

立体的構成（立体的なおかざり）：一般的なおかざり。実物を縮小化して布地で作り、中に綿を入れ、ぬいぐるみのように立体的に仕上げていく。題材は身の周りの人や物である。（写真 18）

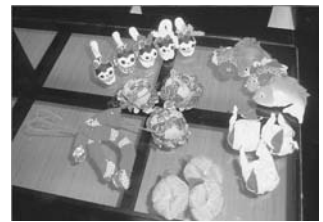


写真 18 ぬいぐるみ式おかざり

平面的構成（平面的なおかざり）：押絵のおかざり。長野、福島、秋田等を中心に製作され、形取りした平らな台紙の型の上に薄く綿を引いてくるみ平面的に仕上げていく。題材は身の周りの物以外に歌舞伎の題目から取った派手なものが多い。（写真 19）



写真 19 押絵式おかざり

②意味による分類

縁起物のおかざり : 三番叟、亀、鯛、瓢箪、ふくろう

子供の成長を願うおかざり : さる子、桃、這い子、枕、唐辛子

幸せな結婚生活を願うおかざり : 二股大根、舟に茸、乳房、巾着

③飾り方による分類

輪飾り : 稲取や柳川のおかざりをはじめほとんどの地域が竹輪を使用する方法

傘飾り : 酒田地方・庄内地方は傘を使用する方法

一本飾り : 縦一列に並べてかざりつけていく方法。雛かざりの一部として、作品の展示や補助的に行われる方法。

しつらえ飾り (仮称) : インテリアとして応用的なかざり方で正式なものではない。

2) おかざりの種類

お飾りの種類は 60 種類ほど確認されているが、地域により多少の相違がある。新作のおかざりはつるし飾りの中に使用することは認められず、古来よりある 60 種類のおかざりで現在も製作されている。下記 (表 1) はおかざりの一覧表である。

表 1 おかざりの種類

花	人 (人形)	食物	動物	道具	その他
桃の花	☆さる子	☆桃の実	猿	座布団	※手鞠
桜	●這い子	みかん	ふくろう	でんでん太鼓	
梅の花	おくるみ人形 (ねんねこ)	とうがらし	犬張子	糸巻き	
桔梗	お手振り人形 (袖振り)	蛤	犬	草履	
花	○姉様人形 (カクガロ)	米俵	午	着物	
ほうずき	姫だるま	柿	亀	風車	
	三番叟	にんじん	海老	紙風船	
	貝人形	大根	鯛	瓢箪	
	お多福	苺	鶴	△巾着袋 (金袋)	
	だるま	◎二股大根	兎	△香袋	
	◎舟に茸		金魚	七宝鞠	
	◎乳房		蟬	扇	
			ねずみ	鈴	
			蝶	枕	
			鳩	△☆三角 (葉)	
			雛	羽子板	
			おしどり	お手玉	
			鶯	よだれかけ	
			鶏 (雄鶏、雌鳥)	薬玉 (柳)	
			金目鯛	▲軍配	
			雀		

☆ : 基本の三つが三角・さる子・桃の実であり型紙が無くても作れる。

◎ : 二股大根・舟に茸・乳房は幸せな家庭生活を願ったかざりもの。(酒田の心光寺奉納のつるし飾り)

▲ : 珍しいかざりもので勝負をつける、上に立ち指導するの意がある。(酒田の豪商風間家の傘福)

※ : 柳川独自のものであり、柳川鞠 (かたく木綿の糸を巻きつけてその上に美しい刺繍をほどこすもの) という。

△：袋（金袋）・香袋・三角は同じ意味を持つ。基本は「薬」の意を表し、昔は巾着・金袋はお金を入れる意と薬も一緒に入れていたことが多かった。どちらにしても「薬」は貴重品であった。

○：姉様人形は女の子がきせかえ人形として遊ぶ玩具である。

●：這子は「ほうこ」と呼び昔は子供が生まれるとその子の人型として作られ、その子の災いを這子に代わってもらうという意があった。その這子が簡略化されざる子になる。這い子人形は別の意味ももつ。（図1、写真20、21）



図1 這子



写真20 這い子（自作品）

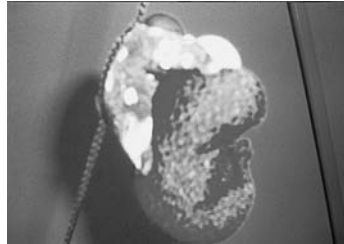


写真21 さる子（自作品）



写真22 さるぼぼ（高山土産品）

這子（ほうこ）は「さる子：（難が去る）」と「這い子（早く歩くように）」に分かれた。さる子は全国各地で一般的な縁起物として土産物の地位を確立している。

（例、飛騨高山の「さるぼぼ」は我国で作られた布人形の原型）（写真22）
玩具なども題材として取り上げることも多い。（写真23）

3）おかざりのもつ意味（いわれ）

かざりものはそれぞれのいわれとして深い意味を持つ。「いわれ」を種類別に下記に一覧表にした。（表2・3・4・5・6）



写真23 玩具（所有品）

表2 動物のおかざり

猿	厄が去る、難が去る、病気が去る
梟	呪力あり、「福や不苦労」にかけている
犬張子、犬	安産の守り神
午	五月の男児節句に使われることが多い
亀	長寿の象徴
海老	腰が曲るまで長寿の象徴
鯛	「おめでたい」の祝い
金目鯛	稲取は金目鯛漁の港のため
鶴	長寿の象徴
兎	兎の目は呪力があり神様の使いと考えられている
金魚	夏を象徴する
蝉	良く泣く子は育つ
ねずみ	大黒様のお使い言われている、金運、霊力があり、多産、働き者
蝶	三々九度の雌蝶・雄蝶、縁起が良い、蝶は綺麗で愛らしい
鳩	神の使い、鳩はむせないでお乳を良く飲むようにの意
ひよこ	子供の好む可愛い動物
おしどり	夫婦仲良くするようにの意
鶯	美声の象徴
鶏	よく泣くように。夫婦仲良く
雀	五穀豊穡をあらわす、食に恵まれる

表3 お道具のおかざり

座布団	早く座れるようにの意
でんでん太鼓	裏表がないようにの意
糸巻き	お裁縫が上手になる
草履	早く歩くことが出来るようにの意
着物	着る物に不自由しない
風車	玩具
紙風船	玩具
瓢箪	縁起物
巾着袋（金袋）	お金に不自由しないようにの願い。袋の中に実際にお金を入れる場合もある
香袋（三角）	香袋は香りの他に薬も入れていた（＝三角）
七宝鞆	玩具
扇	身に着けるもの
鈴	身に着けるもの
枕	「寝る子は育つ」の言い伝えより
三角（富士山）	香袋、お香は貴重品で薬として扱われていた。三角を縁起のよい富士山の形で作られてもいる
手鞠	玩具
お手玉	玩具
羽子板	厄を飛ばす
よだれかけ	丈夫な子供

表4 花のおかざり

桃の花	花のように美しく
桜	花のように美しく
椿	花のように美しく
梅の花	花のように美しく
桔梗	花のように美しく
花	花のように美しく
ほうずき	花のように美しく

表5 食物のおかざり

桃の実	霊力があるとされ、邪気、悪霊を退治する、延命長寿、実が多いから多産の象徴
みかん	滋養があり、水分の多い果物
とうがらし	虫除けの効果がある、娘に虫がつかないようにとの願い
蛤	二枚貝は貞節の象徴
にんじん	栄養価のある野菜
米俵	米や五穀に不自由しないように
大根	栄養価のある野菜
柿	滋養があり、長寿の木、厄払いの効果あり
びわ	あせもの葉

表6 人・人形のおかざり

さるぼぼ（高山）、さる子	厄が去る、病気が去る、難が去る、全国に単独で伝承してい。去るに掛けて 這い子はさる子になる
這い子	「這えば立て、立てば歩めの親心」、子の健やかな成長を願う
おくるみ人形（ねんねこ人形）	可愛い子供の表情を表す
お手振り人形（袖振り人形）	可愛い子供の仕草をあらわす
姫だるま	「七転び八起」福を招く・粘り強い
三番叟	竜でお祝い事を舞う
貝人形	貞節の象徴の貝を使った人形
お多福	美人になるように
姫様人形（オタフグロ）	高貴な人、花嫁さん「カク」、カクの頃が語源→着せかえ人形遊びのことを言う
だるま	「七転び八起」、福を招く・粘り強い

4) つるし飾りの製作・構成方法

題材としては、基本である三角・桃の実・さる子の三点と前記（(3) - 3)）で記した種類の中からつるし飾の製作目的に合うおかざりを加えていく。

製作方法

・立体的なおかざりの場合（ぬいぐるみ式）

- ①製作する種類を決めて基本三点以外は型紙を起こす
- ②布地を型紙に合わせて裁断する
- ③返し口（綿入口）以外を手縫い（ミシン）で縫い合わせる
- ④中に綿を入れて返し口を綴じ形を整える

・平面的なおかざりの場合（押絵式）

- ①製作する種類を決め型紙に合わせて厚紙を作り、布地を裁断する。

裏貼り用の千代紙等も作っておく。

- ②厚紙の上にうす綿を引く、その上に布を引く

- ③厚紙の裏側には裏貼り用の布や紙を張る

ただし、平面的なおかざりである押し絵はほとんどの場合、専門業者が製作していたことが押絵の裏貼りからわかる。注文して作ったものを相手に贈答していたようである。

構成方法

おかざりを赤い糸（紐）に間隔を置いてつけていく。

紐の数は（3、5、7）の奇数を付けていく、おかざりの数も奇数（一本に7～11個）を竹の輪にバランスよく吊るしていく。2組を作って一対として雛壇の両側に飾る。

奇数で考えるのは「割り切れる」のをさけるためである。偶数（2、4、6、8）は縁起が悪いとされている。一組に30～60個ほどのおかざりを付けるので一対では60～120個のおかざりを用意せねばならない。一人の仕事には難しく、複数の女性の協力が必要となる。

そのため、祖母、母、姉、叔母、等の親類など近所の女性が作り、持ち寄り、一対の「ひな飾り」が製作されるのである。糸（紐）におかざりを付ける時の順序に規則性はないが、大きさや色合いのバランスを考える。上段に空に関するものを、中段に山・木に関するものを、下段に海・川（水中）に関するものを飾る場合もある。

5) 使用布地

＜絹物＞

- ・ちりめん
- ・金襴布
- ・縺子

＜綿物＞

- ・メリンス
- ・銘仙
- ・緋

- ・江戸縮緬
- ・金巾
- ・緞子
- ・大島
- ・羽二重
- ・一越布
- ・紬

※布地は和服地の余った端布などを使用する。

（４）日本三大つるし飾りの比較

日本三大つるし飾りである「傘福」「雛のつるしかざり」「さげもん」の比較を下記（表 7）に一覧表とした。

表 7 日本三大つるし飾りの比較

	山形・酒田	伊豆・稲取	九州・柳川
名称	傘福	雛のつるし飾り	さげもん
形の分類	立体的なおかざり	立体的なおかざり	立体的なおかざり
意味の分別	子供の成長 縁起物 結婚生活（夫婦・親子）	子供の成長 縁起物	子供の成長 縁起物
かざり方	傘かざり 一本かざり	輪かざり	輪かざり 一本かざり
おかざりの種類 おかざりの特徴	一般的なもの 夫婦和合の題材（心光寺） 軍配等のような男児に関するもの （風間家所有のもののみ）	一般的なもの 鯛は金目鯛を題材にしている	一般的なもの 柳川鞠を必ず飾るのが大きな特徴
贈答先	神社、寺への奉納が多い	初節句を迎える家	初節句を迎える家
製作方法	立体的に製作	立体的に製作	立体的に製作
構成方法	傘の骨を利用してその先につける。 傘の上は天蓋に相当する赤布が載せてある。 骨組みを 2 本～3 本おきに 10 から 12 本の糸（紐）5、7、9 こずつ飾りを下げている。 一本の傘に 30～90 個の飾りをつけているが数量には決まりが無い 一本の傘のみで、一対にはしない。	紅白の竹の輪 一つの竹の輪に 5～7 本の糸（紐）に 5、7、9、11 個ずつ計 55 個の飾りを下げる。55 個を 1 組として左右に 2 組で（110 個）を一対とする。	紅白の竹の輪 7 本の糸（紐）に七個ずつ計 49 個の飾りを下げる その輪の中央から大きな鞠を 2 つ又は大 2 つと小 1 つを飾る。 計 51 個を一組として左右に 2 組で（102 個）を一対とする。

（５）細工物との関連性

つるし飾りに付けられている「おかざり」が細工物に似ていることから「おかざり」と「細工物」の関連性について調べる。

稲取にしても、柳川にしても、酒田にしてもそれぞれのおかざりの技術がどのように修得して伝承されているかについて、書物や現場での婦人の話をまとめてみる。

江戸初期の作品は残っておらず最も古いものとして明治時代のものがのこっている。

明治時代での技術修得は稲取では港の発展により東京や京都などに人の流れが広がった。

奉公に行った娘達や嫁いだ娘達により行儀見習いということで裁縫等と共に学習したものと考えられる。その結果、和裁の技術が身について故郷に帰ってきた。初めは口縁の着いた袋物の細工で

あったが大正から昭和にかけて現在の形になったと考えられる。

江戸時代には裁縫は女性のたしなみとされ、裁縫所なども存在した。嫁入り前の女子は通い、技術を修得した。裁縫所では細工物等も楽しみとして作られたと考えられる。

明治時代以降の女子の裁縫は教育の中に取り入れられ、広く一般に普及した。細工物や和裁の裁縫雛形等は教科書も発行されている。一連の女子教育を受けた者は細工物は必須で技術を修得していたと考えられる。そのため、稲取・柳川・酒田に限らず細工物は他の地域でも作れる女性はいた。ただし、東京では「吊るす」という習慣は無く、あくまでも和細工物としてそれぞれが単独に存在するものである。明治・大正・昭和と作り伝えられてきた細工物であるが、昭和になると戦争など社会状況や生活様式・家族形態などの変化により作る人の姿も減り、伝承する機会が無くなり消滅していった。明治・大正・昭和初期における裁縫の教科書が残っている。(写真 24、25、26)



写真 24
教科書「裁縫細工物全集」
(東京家政大学博物館所蔵)



写真 25
教科書「裁縫細工物全集」



写真 26
教科書「おさいくもの極意」
(東京家政大学博物館所蔵)

(6) 観光用としての雛飾り

酒田：観光用土産物としては砂糖菓子や土人形（レプリカ）・犬管人形などがある。和細工物や傘福に関するものは見当たらない（2004 年の段階）。2005 年ごろより「傘福」復活のきざしの中で今後は酒田独自の土産物が期待できる。

稲取：観光用の土産物としては雛のつるし飾りの他につるし飾り用の和細工物のキットが数多く売られている。また、展示館（雛の館）では体験教室も常設開催されている。

地元のホテルでは、ホテルの泊り客へのサービスの一環として体験学習を無料で行っている。(写真 27、28、29)



写真 27 這い子人形のキット 1



写真 28 みかんのキット 2



写真 29 体験教室風景（雛の館）

柳川：観光用土産物としては、地場のうなぎ料理や菓子などがお土産物として中心になっている。

地元の有力者であった立花家の経営する土産物店（つるし飾りの展示場もある）の「御花」ではつるし飾りや和細工物、特に「鞠」が販売されている。一般の小売店では和細工物の布地の端切れや和装小物なども販売されている。（写真 30、31、32）



写真 30 柳川市商店



写真 31 柳川市商店



写真 32 柳川市商店

（7）生涯学習「和細工で作るつるし飾り」の講座から見える今後の動向

急激な変化に伴う一般の製作者の考えはどのようなものか東京家政大学生涯学習センター「和細工で作るつるし飾り」の受講生のアンケートより考察をしてみる。ただし、このアンケートはデータ数量不足のため統計的に表すのは難しいので考え方を参考にする程度にとどめる。

※現在まで年 2 回で 4 年間の受講生は 64 名。ただし、リピーターが多く、実質での受講生は 23 名となるため数値がとりにくい。



写真 33 講座風景



写真 34 講座風景



写真 35 受講生作品

東京家政大学生涯学習センター「和細工で作るつるし飾り」の受講生（年齢：30 代～80 代）へのアンケート実施による回答結果（実施は平成 20 年 6 月 18 日）を下記（表 8）に整理した。

表 8 回答結果

質問内容	回答 1 位	回答 2 位	回答 3 位
「つるし飾り」を何で知りましたか	テレビ	現地旅行	無し
「つるし飾り」の実物を観たことがあるか	ある、稲取	都内店頭	無し
どこの「つるし飾り」を参考に製作するか	稲取	柳川	
「つるし雛」を製作しようとした理由	手芸好き（得意）	和服布がある	作ってあげたい人がいる
誰のために製作しますか	自分	娘	孫
以前に細工物を学校で習ったことがある	ある 0		
以前に細工物を習い事として習ったことがある	ある 3		
講座受講の回数	6 回	5 回	3 回
講座が終了しても作り続けますか	はい		
製作した品は「雛祭り」に飾りますか	はい		
ご家庭の評価はいいですか	大変よい		
製作の難易度	よい	ちょっとむずかしい	

アンケートとしては人数や講座回数より不十分ではあるが、受講生の「つるし飾り」に対する考え方が少し理解できる。このアンケートは今後も続けデータとして成立させたいと考えている。

このアンケートの結果から、受講生としては30代から80代にかけての専業主婦・パート主婦と子育てを終了し時間的にも精神的にも経済的にも余裕のでてくる時期に始める方が多い。その中でもこの講座の場合は当講座のような内容の講座を探している方が多い。他のカルチャースクールにも通ったが授業料・材料費が高価で続けられなかった方もいる。

裁縫などの経験者や手芸を好きな方がほとんどで製作を難しいと感じる方が少なく技術指導をする上での問題は無い。80代の方、70代の方は共に学生時代に細工物を学んでいないことから昭和初期には戦争の関係もあり学校で学ぶ機会が少なかったと考えられる。カルチャースクールで学ばれた方も東京の大手百貨店主催や個人指導の教室へ通われていた。

四年間で6回の講座を開催したが、5回以上参加された方が多い。リピーターになりうる理由はおかざりの種類が60種類もあり、全てを取得しようとする意欲があるためと考えられる。製作したい参考作品としては、華やかな稲取や柳川のものを希望する傾向にあるが、どちらかというと言った完成作品は稲取・柳川・酒田を混合したもので形にとらわれない自分流のものが多くある。

参加の目的は、自分のためのつるし飾りを作るため・同じ趣味の友達を作るという自分を中心とする考え方が大半を占める。次にまだ見ぬ娘へ、孫へと移る。稲取などのように本来のつるし飾りの製作の意味とは違う点も新しい「つるし飾り」のあり方である。

4 結び

今回はつるし飾りの中でも日本三大つるし飾りである山形・酒田の「傘福」、伊豆・稲取の「雛のつるしかざり」、九州・柳川の「さげもん」の「雛」を中心とするつるし飾りに焦点を当ててその特徴を調べ、更に今後の発展と変化を考察した。

大きな特徴としては、専門家が伝統工芸として創り上げたというものでなく一般の庶民の生活の中で作り上げ広まったものであることがあげられる。それが戦前・戦中・戦後の空白の年を経て、日本独自の手芸品となり、更に伝統工芸へと移行しつつある大事な時期にきていると考えられる。

日本においても和服などは、母から娘へ受け継がれていた物であったが生活様式の変化などから和服を着用しなくなった現代では、和服地を利用して洋服や小物にリフォームしたり、他への転換を計り新しいものとして継承していく様子が見受けられる。戦中・戦後より40年余の空白の後に復活した「つるし飾り」にも同様な流れを感じた。観光を中心に復活し、当初とは多少のづれが生じているが伝統工芸品の新しい形への継承にもつながると考えれば喜ばしいことといえる。復活してから10年余経っているが、江戸・明治・大正の時代と違い情報の発達した現代では祖母から娘へ孫へと継承するのみにかかわらず全国へ知識や技術を伝達できる。そのことから今後は空白の時を生むことは無いと考えられる。

つるし飾りに出会ってから7年余り経つがその間にまさにブームというほど流行り、首都圏においても二月の節分の後よりホテルや旅行会社の店頭でも「つるし飾り」が観られ、東京のデパート

のカルチャースクールでは「和細工物」のコースが人気をはくしている。復活から短期間での変化をふまえて今後の予想されるつるし飾りの発展と変化を整理してみる。

- ①書籍やパソコンなどのデータベースも増え、細工物の型紙や作り方が正確かつ確実に保存でき後世につなげることができる。
- ②知識・技術の伝承が酒田・稲取・柳川に限らず全国に広がり雛祭りにつるし飾りも飾る地域が増える。
- ③つるし飾りの「おかざり」の変化があげられる。雛に限らず、アニメキャラクター・クリスマス・ハロインなど海外行事の作品のおかざりなどの自由な発想があらわれる。
- ④材料である布は本来古布を使用すべきであるが、色彩豊かでや安価な合織の布の作品も多くなる。また、国内外における民族布なども用いられる。
- ⑤材料としても「キット」等製作し易い型での販売品が増える。
- ⑥三月に限らず一年中作られ手芸の一分野として存在し、その地位を確立する。
- ⑦子や孫のため以外にも自分のために製作するという製作目的の変化があげられる。
- ⑧つるし飾りの「しつらい」＝インテリアとしての存在の拡大。

以上のことが今後のつるし飾りの発展と変化につながっていくと考えられる。

このような全国的ブームの中で 2008 年には稲取・柳川・酒田の三地域による「日本つるし飾りサミット」の第一回が伊豆・稲取にて開催され、つるし飾りを貴重な日本の文化として観光の振興に生かす事とこれからの発展に協力していくことを確認し、共同宣言に調印した。第二回サミットは 2009 年 3 月に柳川にて開催が予定される。

稲取の「雛のつるし飾り」を発端にした観光開発から復活した小さな第一歩が大きな第一歩へと続いていく。母娘への想いを託したこの美しい和細工はどの世界にも類を見ない日本独自の手工芸品である。更に外国の手芸品のパッチワークやキルトと同じように一般庶民の手から生まれた貴重なものでもある。今回のサミットをきっかけに三つの地域が連携し「日本のつるし飾り」を日本の伝統手工芸品として発展させ、日本独自のものとして海外へも発信させていくことを期待する。

参考文献

- | | | | |
|-----------------------|----------|--------|---|
| 1) 藤田順子著：「雛の庄内二都物語」 | SPOON の本 | 2004 年 | P252 ～ 261 |
| 2) 藤田順子著：「雛と雛の物語」 | 暮らしの手帳 | 2003 年 | P166 ～ 167 |
| 3) 福田東久著：「雛祭り」 | (株)近代映画社 | 2007 年 | P42 ～ 60 |
| 4) 井上重義著：「四季の傘飾りと雛飾り」 | 日本ウォーク社 | 2007 年 | P2 |
| 5) 水口婉子著：「伝承のちりめん細工」 | グラフ社 | 2004 年 | P22、62 ～ 63 |
| 6) 山崎祐子著：「雛のつるし飾り」 | 三弥井書店 | 2006 年 | P19 ～ 30、47 ～ 48
P54 ～ 60、63、111,123 |

写真撮影協力場所

稲取市 雛の館 「つるし飾り」 2004 年

つるし飾りについての考察

柳川市 御花、北原白秋記念館 「つるし飾り」 2006 年

鴻巣市役所ロビー 鴻巣市びっくり雛まつり実行委員会製作 「つるし飾り」 2008 年

勝浦市内 (地藏堂) 覚翁寺檀家奉納品 「つるし飾り」 2008 年

資料提供

酒田市 本間美術館パンフレット「傘福」写真使用 2005 年

酒田市 本間家旧本邸インフォメーションガイド「山王祭」絵図使用 2005 年

酒田市 華の館 酒田観光物産協会パンフレット「亀傘鉾」写真使用 2005 年

東京家政大学博物館 「裁縫細工物全集」「おさいくもの極意」写真使用 2005 年